

自然 保護

グリーンフレンズ

グリーンフレンズは、環境の保全と保護のための運動として、2001年にインドで始められました。それ以降、世界中に広がりを見せています。グリーンフレンズは、自然と人間との結びつきに対する気づきを再び目覚めさせること、そして母なる自然に対する愛と畏敬の念を培うことを奨励しています。

愛と祈りという個々人の力を通じて、一人ひとりの人間は、自然との調和を取り戻すために、重要な役割を果たす能力を持っています。まさに「グリーンフレンズ」(緑の友達)として、自然の中での瞑想、植林、日常生活における自然資源の保護を行うとともに、環境意識を促進するプロジェクトに人々は参加しているのです。



聖なる木立 (ケーララ)

古来より人々は、森に若い下草を植えることで、母なる自然、あるいは聖なる木立を敬っていました。そのような伝統が失われつつある現在、グリーンフレンズは聖なる木立を保護するばかりでなく、新たな木立をも生み出そうとしています。

“愛と慈愛を通してのみ、自然の保護と保全が可能になります”

—アンマ



アムリタフォレスト プロジェクト ～アムリタワナム

写真上から) グリーンフレンズの集会、フランスのアンマのセンター

毎年11月、グリーンフレンズはインドのケーララ州において、10万株の苗木を頒布し、その植樹を行っています。グリーンフレンズはケーララ州に200の温室を管理しており、毎年500株以上の苗木を頒布しています。津波被害の後、グリーンフレンズは、沿岸の村々を保護するため、海岸沿いに10万株の苗木を特別に植樹することにしました。このプロジェクト、「グリーンショア」(緑の海岸)は、土壌と土砂の侵食を防ぐために、13キロに及ぶ海岸線の安定を確保するのに役立っています。

“自然との間に愛の絆を確立することにより、自然の調和と人類の進歩が確実なものとなるのです”

—アンマ